

美幌中学校の新しい教育目標について

校長 長 谷 博 文

1 現在の教育目標の背景

【教育目標】

明朗でなごやか、自ら考え行動し、健康で逞しい生徒

(平成 12 年制定)

- ・平成 12 年に制定された教育目標は、平成 10 年改訂の中学校学習指導要領（以下、H10 指導要領）の本格実施に向けて検討し制定したものと考えられる。
- ・H10 指導要領では、「生きる力」の育成を掲げ、「ゆとりのある教育活動の展開」「教育内容の厳選」「授業時数の削減」「総合的な学習の時間の創設」などが示された。その後、PISA 調査による学力低下の原因とされ、国内で批判の対象となったいわゆる「ゆとり教育」のスタートである。
- ・中学校では、選択教科が導入され、教育課程の編成・実施では各学校が混乱している状況があり、次の改訂では選択教科の時数が位置付けられず、実質、選択教科はなくなった。
- ・また、国内では週休 2 日制が導入されていたにもかかわらず、学校の教職員には適用されてこなかったことから、学校 5 日制の考え方が文科省の審議会（H4）に示された。その後、H4 から月 1 回、H7 から月 2 回の学校 5 日制となった。H10 指導要領が完全実施（小・中・高等学校）となった H14 に、ようやく学校 5 日制が完全実施となった。
- ・そのような中、H10 指導要領の「生きる力」の定義を踏まえ、本校の教育目標「明朗でなごやか、自ら考え行動し、健康で逞しい生徒」が制定されたと考えられる。

	要素	定義	教育目標（※定義に対応）
生きる力	確かな学力（知）	自ら課題を見つけ、自ら学び、 自ら考え 、主体的に判断し、 行動し 、よりよく（略）	自ら考え行動し
	豊かな人間性（徳）	（略）他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性	明朗でなごやか
	健康・体力（体）	たくましく 生きるための 健康 や体力	健康で逞しい生徒

- ・本校の教育目標は、上記の表で分かるように知・徳・体をバランスよく育むことを目指していることが分かる。
- ・しかしながら、平成 12 年当時の生徒や保護者の状況、社会の情勢などは大きく変化しており、令和の時代にふさわしい教育目標となっているのかという疑問がある。
- ・また、中学校学習指導要領においては、平成 20 年改訂、平成 29 年改訂と約 10 年ごとの改訂が進み、情報化時代や Society5.0 に対応した趣旨や内容が示されている。その間、教育目標を見直した記録はなく、教育目標だけが取り残された感は拭えない。

2 教育目標改訂の必要性

- ・学校教育は、学校ごとの教育目標の実現を目指して教育活動が営まれるものである。
- ・教育関係者の中には、学校のグランドデザインさえ整えば、教育活動の充実を図ることができるし、グランドデザインの見せ方や活動内容にだけにこだわる人がいるが、これは間違いである。
- ・グランドデザインにおいても、目指すべきことは教育目標の実現であり、この目標が飾りとなって

しまつては、何のための活動なのかが不明になる。

- ・したがって、今求められるのは、教育目標が生徒や教職員に浸透し、教育目標を指標として様々な活動に取り組んでいく姿勢である。誰も覚えていない教育目標、年に数回しか目にしない教育目標では意味がない。
- ・現行の中学校学習指導要領の趣旨や内容を踏まえるとともに、時代のニーズや教職員・保護者・地域住民の願い、生徒に親しみのあるワード等を考慮し、教育目標を改訂しなければならない。
- ・ただし、すべてを新しいものにすることではなく、本校がこれまで大切にしてきたことや教育の普遍的な要素は大切にしながら、目標を設定していくこととする。例えば、校章にある桜花や柏葉は「清廉潔白」「質実剛健」の象徴とされている。これらの象徴的な言葉を生かしながら目標を検討することも考えられる。

3 教育目標の改訂までのスケジュール

時 期	内 容	担 当
6月中旬 7月上旬	教職員・生徒へのアンケート実施	
	・アンケート項目の検討 (例)「美幌中の理想の生徒像とは？」など	校長 校務運営
	・アンケート入力の実施 (方法) Google Forms による記入	GIGA 担当
7月下旬	アンケート内容の分析 (方法) テキストマイニング「共起ネットワーク」等	校長
8月下旬	①職員会議(8/17) ・教育目標「素案」の説明 (検討) 学年部で検討⇒校長へ意見(9/9まで)	①校長
9月下旬	①-2 職員会議(9/12) ・一部文言の変更	①-2 校長
	②学校だより等での原案提示 ・学校だより等で保護者に原案を提示し意見を募る。	②教頭
10月中旬	③学校運営協議会への説明 ・文書にて学校運営協議会委員の了承を得る ④PTA役員への説明 ・教育目標「案」提示 ⑤職員会議(10/17) ・「教育目標」⇒決定	③～⑤校長
11月上旬	⑥臨時生徒集会 ・「教育目標」の説明(校長) ⑦教育目標の掲示 ・印刷会社への発注、教室・特別教室への掲示	⑥生徒会係 ⑦事務部 ⑦学習部

4 アンケート項目の設定

教職員・生徒へのアンケートは、校務運営委員会で協議し、アンケート内容を確定した。アンケート内容は、教職員・キーワードとなる言葉を9つの選択肢とし、その中から、目指す生徒像を3つ選択することとした。また、選択した3つの中から1つを選び、その理由を記述することとした。このことにより、最も大切にしたい項目を明確することができると考えた。

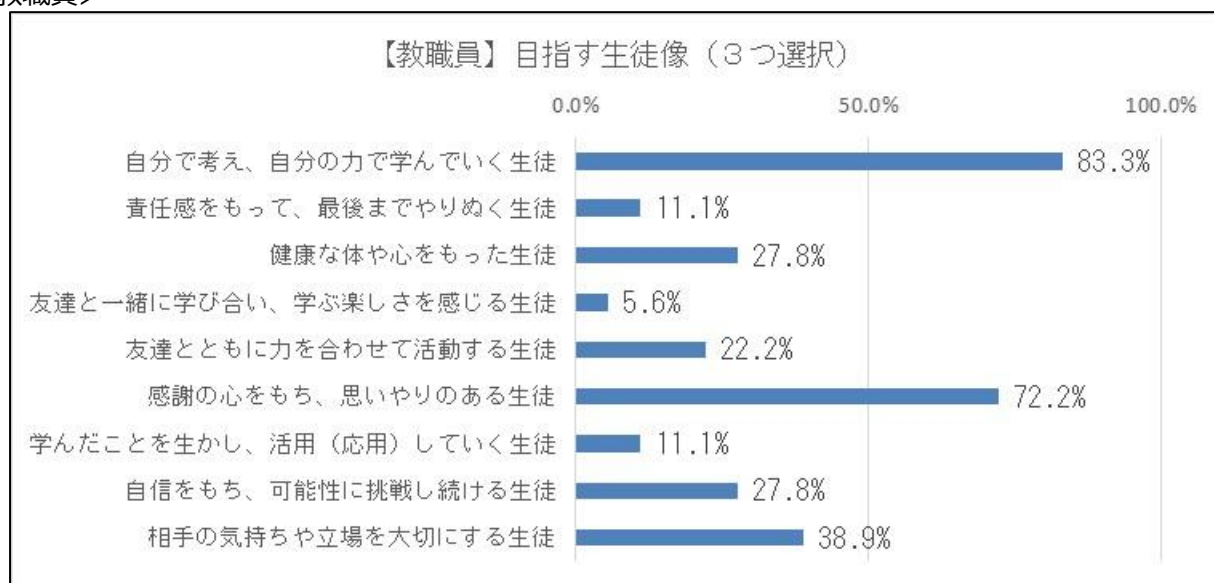
さらに、教職員アンケートでは「今後力を入れたらよいと思うこと」を質問し、本校が重点的に取り組むべき内容を把握した。

アンケートの実施はGIGA担当が行い、google Formsの機能を利用して、教職員と生徒がタブレット端末で回答した。その結果をGIGA担当が校長に報告した。

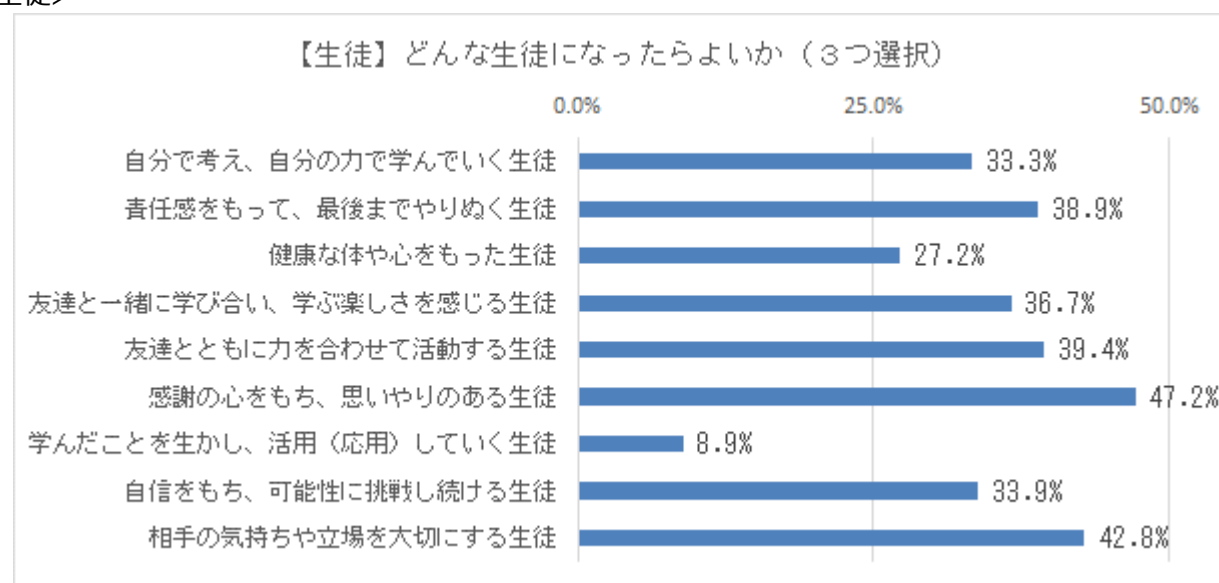
5 アンケートの結果と分析

(1) Q 1 (目指す生徒像として適切なものを3つ選択)の結果

<教職員>



<生徒>

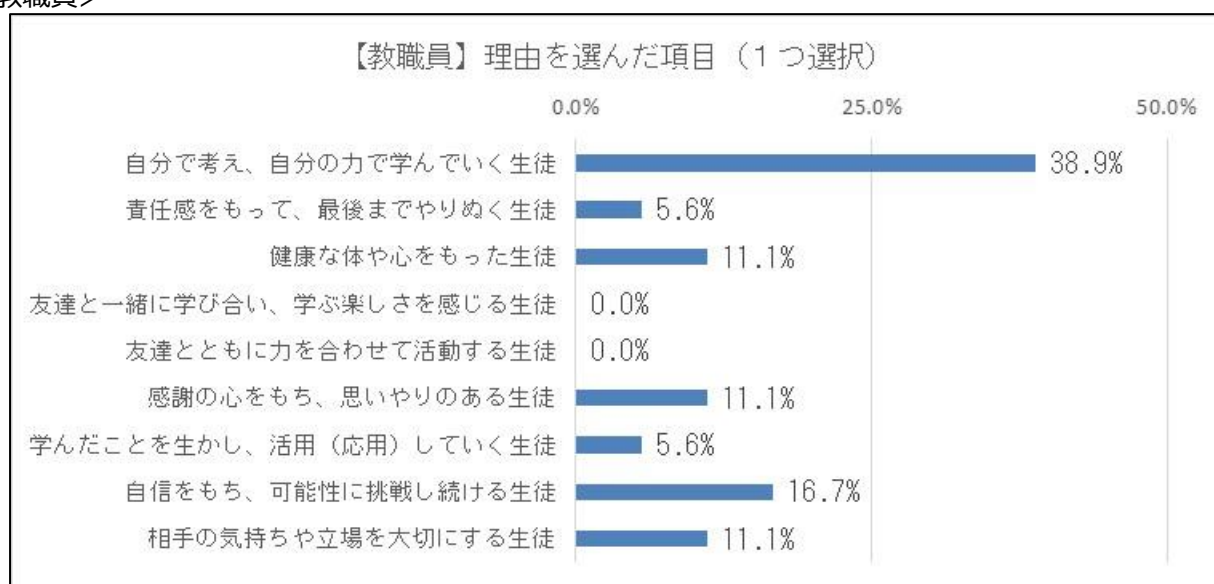


【分析1】

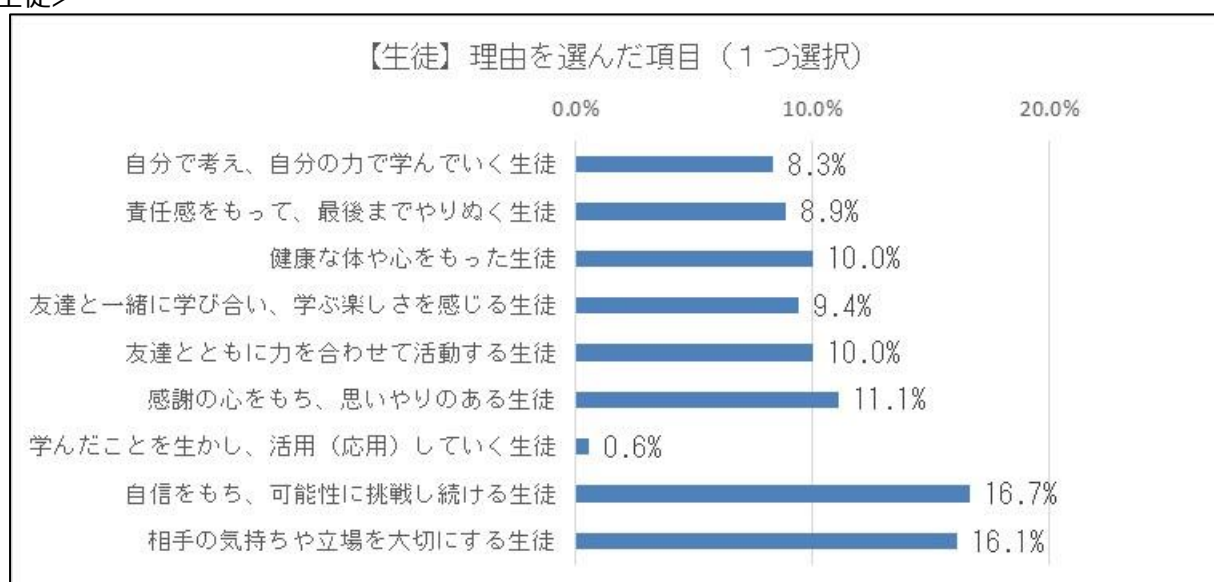
- ・教職員の回答では「自ら考え、自分の力で学んで…」「感謝の心を持ち、思いやりのある…」の2つが突出して多い傾向にある。
- ・生徒の回答では「感謝の心を持ち、思いやりのある…」「相手の気持ちや立場を大切に…」「友達とともに力を合わせて…」の順になっており、1位 47.2%～7位 33.3%まで大きな差はみられないが、「学んだことを生かし…」が 8.9%と極端に低くなっている。
- ・教職員と生徒の回答では、感謝の気持ちをもつ生徒になることへの願いが高いことが共通している。

(2) Q2 (Q1の回答から1つ選び理由を述べる)の結果

<教職員>



<生徒>



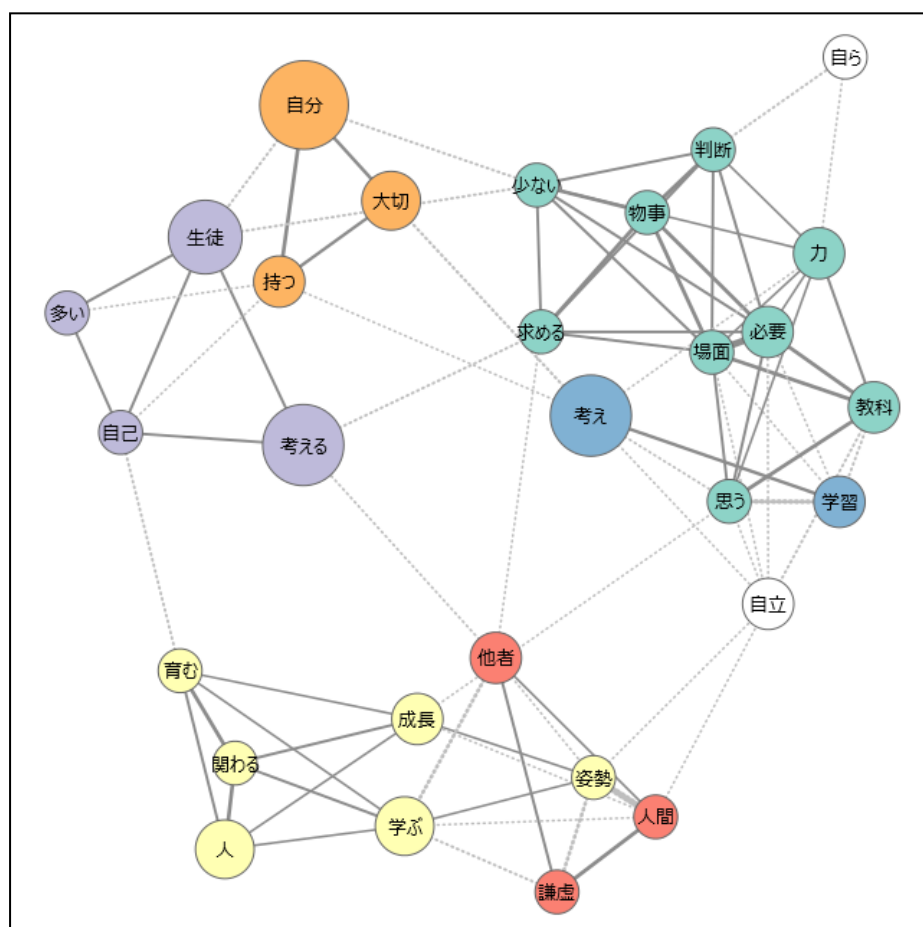
【分析2】

- ・教職員の回答では「自ら考え、自分の力で学んでいく生徒」が多く、主体的に学ぶ生徒になってもらいたいという願いが伺える。生徒の状況から、情意面・生活面よりも「学ぶ意欲」をもつことに期待したいという傾向がある。
- ・生徒の回答では「自信を持ち、可能性に挑戦し続ける生徒」「相手の気持ちや立場を大切にする生徒」が上位であり、学習面よりも将来へのチャレンジや他者に尊重する気持ちをさらに高めたいという傾向がある。
- ・理由の回答を1つ選択することで、教職員と生徒で重視すべき項目が分かれていることを明らかにすることができた。

＜教職員＞

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
自分	8	育む	2
考え	7	関わる	2
考える	7	求める	2
生徒	6	謙虚	2
学ぶ	4	姿勢	2
人	4	思う	2
大切	4	自ら	2
学習	3	自己	2
教科	3	少ない	2
持つ	3	場面	2
自立	3	人間	2
成長	3	多い	2
他者	3	判断	2
必要	3	物事	2
力	3		

(描画数 6 0)



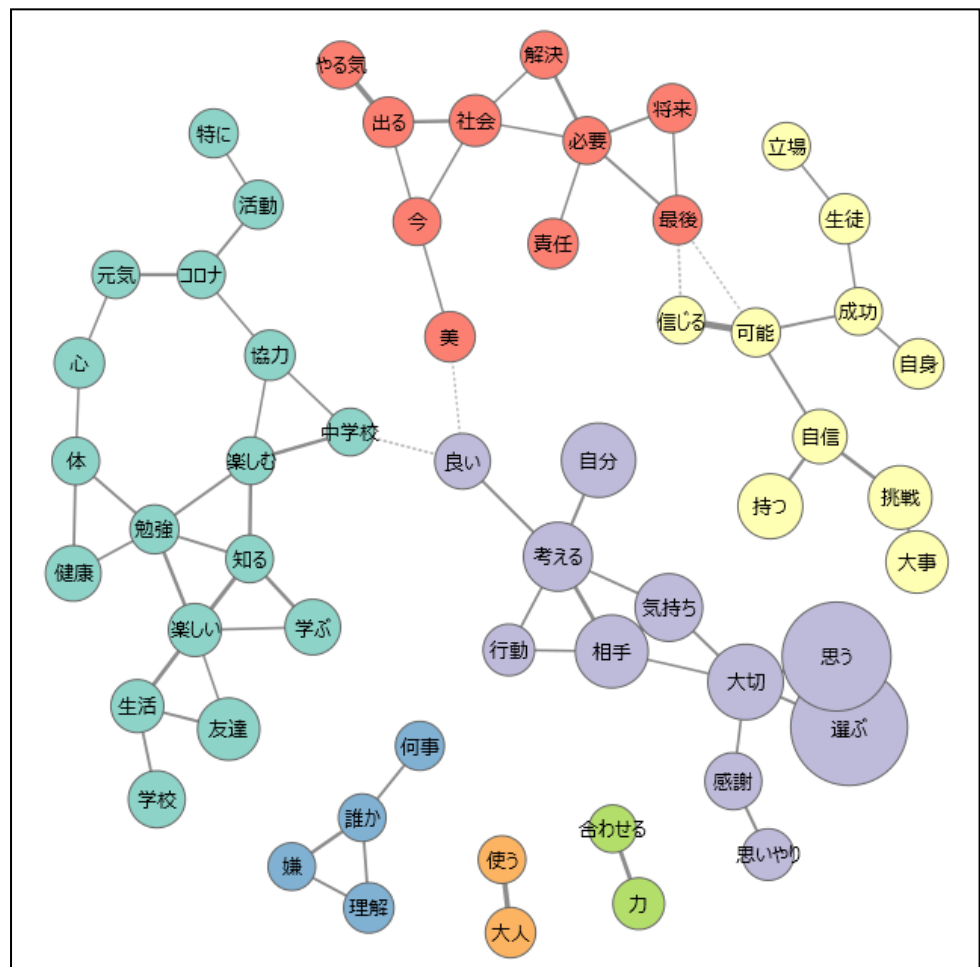
<生徒>

頻出150語のリスト（出現回数2以上を表示／非抽出ワード：番、数字）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
選ぶ	54	思いやり	5	やる気	2
思う	48	社会	5	コロナ	2
大切	23	力	5	一緒	2
自分	22	協力	4	解決	2
相手	21	自身	4	楽しむ	2
考える	18	出る	4	嫌	2
気持ち	17	心	4	元気	2
持つ	15	生徒	4	合わせる	2
挑戦	14	責任	4	今	2
大事	13	大人	4	使う	2
友達	13	美	4	信じる	2
人	11	理解	4	成功	2
学校	9	何事	3	体	2
感謝	9	可能	3	誰か	2
学ぶ	8	活動	3	知る	2
健康	8	最後	3	中学校	2
良い	8	将来	3	必要	2
自信	7	成長	3	病気	2
楽しい	6	多い	3	立場	2
生活	6	特に	3		
行動	5	勉強	3		

共起ネットワーク

(描画数 60)



【分析3】

- ・教職員の共起ネットワークを見ると、大きく3つのカテゴリーに分かれており、「考え（る）」というワードがカテゴリーを接続していることが分かる。
- ・「自分」「生徒」を中心としたカテゴリーでは、「授業でも友人間でも自分の意見を押し潰す生徒が多い中で、自信を持ち、自己表現するようになってほしいと考えている」という回答があった。
- ・「教科」「必要」を中心としたカテゴリーでは、「特に5教科以外の教科に関しては子どもたちが自立していくのに必要な力」という回答があった。
- ・「人」「学ぶ」を中心としたカテゴリーでは、「人と関わることで人は成長でき、関わり方を学び育むことが人を育てると考える」との回答があった。
- ・このことから、生徒に人として成長してもらうために、必要な力をしっかりと付けさせていきたいという教職員の願いが伺える。
- ・生徒の共起ネットワークでは、中心ワードが見当たらず、大きく5つくらいのカテゴリーに分かれている。
- ・頻出150語のリストでは、「選ぶ」「思う」の出現回数が多いが、これは「〇番を選んだ理由は、…だと思います。」という文型によるものである。
- ・出現回数の3～5番では「大切」「自分」「相手」とあり、「自分のことだけではなく、相手の気持ちを大切にすればもっと良い学校になる」「人の気持ちを考えて行動することが大切だと思う」との記述があった。
- ・このことから、他者の気持ちを察して行動することで、よりよい学校になっていくと考えている生徒が多数いることが伺える。

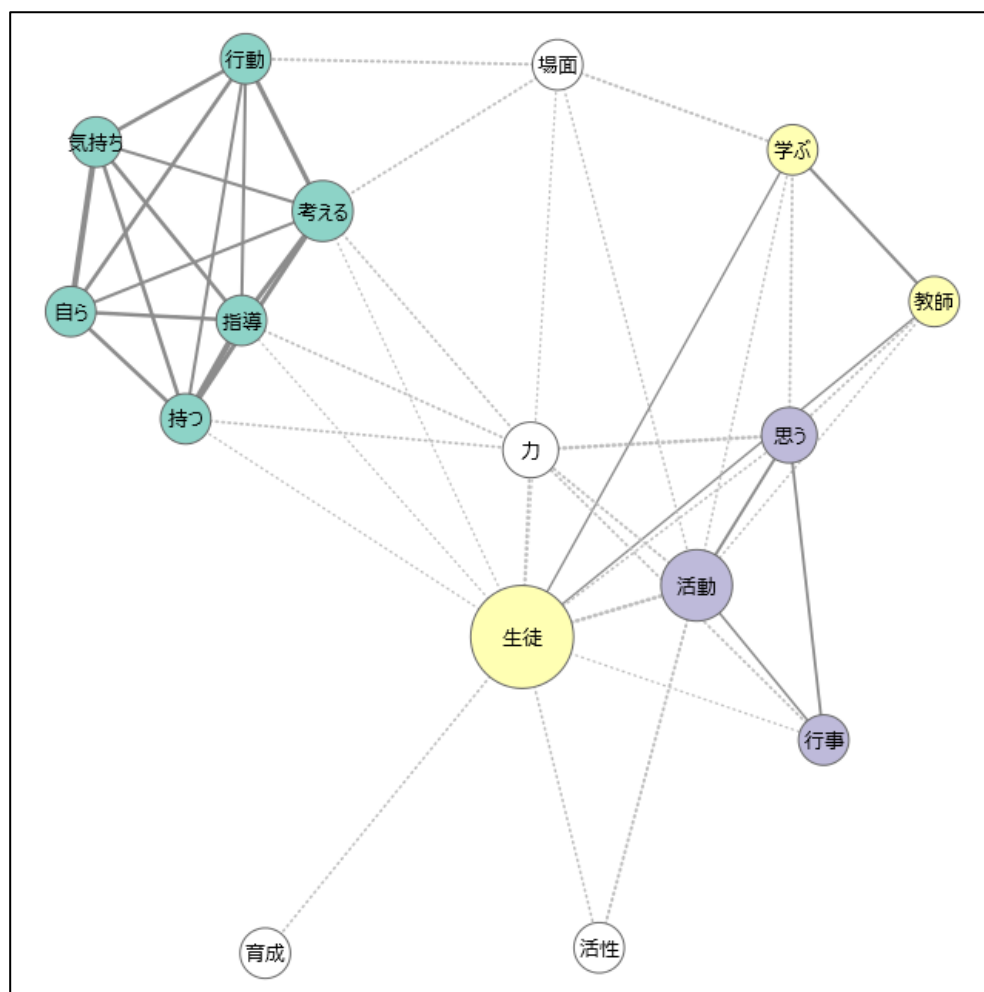
（3）Q3の理由

＜教職員＞

頻出150語のリスト（出現回数2以上を表示／非抽出ワード：番、数字）

抽出語	出現回数
生徒	12
活動	6
考える	4
思う	3
力	3
育成	2
学ぶ	2
活性	2
気持ち	2
教師	2
行事	2
行動	2
指導	2
持つ	2
自ら	2
場面	2

共起ネットワーク
(描画数 60)



【分析 4】

- ・共起ネットワークでは、「生徒」を中心として、大きく2つのグループに分かれている。
- ・「考える」「行動」のグループでは、「自ら考え、自ら行動できるように」「他人の気持ちや行動を考えて」という記述があった。
- ・「活動」「行事」のグループでは、「生徒の自治的な活動の活発化」「生徒会・学級活動の活性化」という記述があった。
- ・また、グループ化はしていないが、「学ぶ」「教師」のワードでは、「教師の一方向的働きかけではなく子どもたち同士の交流や学び合うことが思考力や人間的な成長につながらると思う。」という協働的な学びの視点での記述があった。
- ・このことから、今後伸ばしていきたい力として、自発的に行動していく生徒や、生徒会活動を核とした自治的活動で自発的に取り組む生徒を育みたいということが分かる。

6 新しい教育目標（案）

アンケート結果の分析を踏まえ、教職員や生徒の願いを次の言葉で集約し、本校の教育目標として設定する。

【新しい教育目標】	
夢へのチャレンジ 切磋琢磨する生徒	
〔教育目標を支える基本姿勢〕	
①美の心	②本気の学び
③論より実践	
（令和4年11月1日制定）	

【教育目標】

教育目標	（1 段目）設定の意図／（2 段目）関連事項
夢への チャレンジ	〔設定の意図〕 ・このワードは、生徒が自分の夢や希望に向かって挑戦し続ける姿をイメージしている。 ・ここでは「 <u>個</u> 」の意欲化や積極性を求めており、自分に自信をもち、自ら行動し学んでいく生徒を目指している。 ・学校生活において、自分の長所や特性を見極め、どんな未来が待っているのかを期待しながら、様々なことにチャレンジする気持ちをもち続けてもらいたいと願っている。
	〔関連事項〕 ・分析1（教師83.3%）「自分で考え、自分の力で学んで…」 ・分析2（生徒16.7%）「自信をもち、可能性に挑戦し…」 ・分析3（教師記述）「自信をもち、自己表現するように…」
切磋琢磨する 生徒 ※切磋琢磨…学問・ 道徳に、励みに励 むこと。また、仲間 同士互いに励まし 合って向上するこ と。	〔設定の意図〕 ・このワードは、学校生活の中で生徒が様々な経験をして、友達と共に成長していく姿をイメージしている。 ・ここでは「 <u>集団</u> 」での学び合いや高め合いを求めており、集団の中でこそ人としての成長があることを信じて教育活動を進めていくことを目指している。 ・切磋琢磨するには、友達と力を合わせたり、友達に感謝の気持ちをもって接したり、友達の気持ちを考えて行動したりということが大切になってくる。集団生活の中で、これらの経験を重ねながら大きな心を育ててもらいたいと願っている。
	〔関連事項〕 ・分析1（教師72.2%）（生徒47.2%）「感謝の心をもち、思いやりの…」 ・分析2（生徒16.1%）「相手の気持ちや立場を大切に…」 ・分析3（生徒記述）「自分のことだけではなく、相手の気持ちを大切にすればもっと良い学校になる」「人の気持ちを考えて行動することが大切…」

〔教育目標を支える基本姿勢〕

基本姿勢	(1 段目) 設定の意図／(2 段目) 関連事項
①美の心	〔設定の意図〕 ・教職員・生徒アンケートで上位になっていた「感謝の心」「思いやりの心」「相手の気持ちを尊重する心」は、社会の中で生きていく上で普遍的な価値であり、人として大切にすべき道徳的な要素である。 ・これらの心は人としての美しさであり、本目標を支える基本姿勢として「美の心」と表現することとした。 ・授業や学校行事等で心を磨くことで、生徒が本来もっている「美の心」をさらに伸長し、よりよい未来を創る人材に成長していくことを期待している。
	〔関連事項〕 ・分析 1 (教師72.2%) (生徒47.2%) 「感謝の心を持ち、思いやりの…」 ・分析 3 (生徒記述) 「自分のことだけではなく、相手の気持ちを大切にすればもっと良い学校になる」「人の気持ちを考えて行動することが大切…」 ・校章「清廉潔白」…心や行いが清くて正しく、後ろ暗いところがなにひとつない様子。
②本気の学び	〔設定の意図〕 ・学校は「学びの場」であり、特に中学校は義務教育の仕上げとして「社会で生き抜くための学力を身に付ける場」である。社会で生き抜くための学力は、知識の暗記ではなく、知識・技能を活用して課題を解決する資質・能力である。 ・そのため、教職員は教育環境を整え、生徒が主体的・対話的に学ぶことのできる授業を構築しなければならない。また、生徒は友達の話聞き、自分の考えを広げるために、どの授業も真剣に参加する姿勢をもつことが大切である。(協働的な学び) ・また、ICT機器(タブレット端末等)を活用し、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することも重要である。(個別最適な学び)
	〔関連事項〕 ・分析 1 (教師83.3%) 「自分で考え、自分の力で学んで…」 ・分析 4 (教師記述) 「子どもたち同士の交流や学び合うことが…」 ・学習指導要領(H29)「主体的・対話的で深い学び」 ・中教審答申(R3)「個別最適な学び」「協働的な学び」
③論より実践	〔設定の意図〕 ・「美の心」を育て、「本気の学び」で資質・能力を高めたことを日常生活で実践していくことが大切である。 ・「論より実践」は、「論(物事の道理)」を軽視するということではなく、論理的に身に付けたことを日常生活で意欲的に実践してもらいたいという願いを込めている。 ・「思いやりの心」や「知識・技能の活用力」などをこれから遭遇する様々な場面で生かし、心身ともに健康で豊かな生活を送りながら、逞しく生きていくことを願っている。
	〔関連事項〕 ・分析 1 (生徒42.8%) 「相手の気持ちや立場を…」 ・分析 4 (教師記述) 「自ら考え、自ら行動できるように」 ・校章「質実剛健」…中身が充実して飾り気がなく、心身ともに強くたくましいさま。